



第 60 号

目 次

論 文

- 柴四朗の国権論 高井多佳子 (1)
——『佳人之奇遇』における「自由」——
北シリアにおけるスンナ派優遇策の開始 谷口 淳一 (25)
——十二世紀前半のハラブ——

研究ノート

- アメリカに渡った日本人移民に関する歴史研究の現在 坂口 満宏 (43)
——『日本人アメリカ移民史』補論——

書 評

- 坂口満宏著『日本人アメリカ移民史』 松田 京子 (63)
松井嘉徳著『周代国制の研究』 吉本 道雅 (69)

載 録

- 中山清教授 略年譜・著作目録 (77)

- 総目録 (51~60号) (81)

- 彙 報 (87)

2 0 0 3 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

総目録 (五一〜六〇号)

—ラウンドヒル・スクールを中心に—

研究ノート

奈良期に於ける皇親の存在形態 吉住恭子

『古語拾遺』から見た中臣氏の虚・実 舟杉真理子

書評

林田芳雄著『華南社会文化史の研究』 谷井俊仁

彙報

五三号

(一九九六・三)

彙報

五四号

(一九九七・三)

蓮如の研究

—真宗再興の立志と猶子問題—

籠谷眞智子

何喬遠と『閩書』

中村敬字におけるパーソニフィケーション

ヨニー『西国立志編』の場合—

一九二〇年代のクイー・クラックス・ク

杉井六郎

ラン

常松 洋

史料紹介

荒木田守武『神税日記』

稲本紀昭

書評

籠谷眞智子著『真宗文化史の研究

金龍 静

—本願寺の芸能論考—

檀上寛著『明朝専制支配の史的構造』

鄭 台燮

載録

籠谷眞智子教授 略年譜・著作目録

林田芳雄教授 略年譜・著作目録

杉井六郎教授 略年譜・著作目録

彙報

五五号

(一九九八・三)

論文

地主的土地所有の構造と地主経営

中山 清

総目録 (51~60号)

五一号

(一九九四・三)

論文

アテナイ人の国家とオリブ

北畠氏発給文書の基礎的研究(中)

中国専制国家と儒教イデオロギー

—「士」身分の変遷を通して—

檀上 寛

史料紹介

『瀛環志略』の翻菜

『天正十八年・同廿年 南北勢神領

取立日記』について

杉井六郎

稲本紀昭

書評

狩野直禎著『後漢政治史の研究』

富谷 至

彙報

五二号

(一九九五・三)

論文

高樹文庫蔵断裂地球儀図について

幕末期頸城平野における大地主経営の

構造と展開

—新潟県頸城地方の地主制(4)—

〈新しきアメリカ人〉とその高等教育

改善の試み

船越昭生

中山 清

江川良一

研究ノート

奈良期に於ける皇親の存在形態 吉住恭子

『古語拾遺』から見た中臣氏の虚・実 舟杉真理子

書評

林田芳雄著『華南社会文化史の研究』 谷井俊仁

彙報

五三号

(一九九六・三)

論文

元代江南投下領の分賜について

北畠氏発給文書の基礎的研究(下)

こたまする地図

—ライデン大学図書館蔵シーボルト・

コレクションの一図から—

淳仁期の造宮計画

—宮の新営と天皇権獲得の原理—

鄭氏台湾政権の成立過程

研究ノート

積奠三姓奉供をめぐる

史料紹介

『天文・寛永間話初之記』

書評

藤縄謙三編『ギリシア文化の遺産』

植松 正

稲本紀昭

船越昭生

五四号

(一九九七・三)

蓮如の研究

—真宗再興の立志と猶子問題—

籠谷眞智子

何喬遠と『閩書』

中村敬字におけるパーソニフィケーション

ヨニー『西国立志編』の場合—

一九二〇年代のクイー・クラックス・ク

杉井六郎

ラン

常松 洋

史料紹介

荒木田守武『神税日記』

稲本紀昭

書評

籠谷眞智子著『真宗文化史の研究

金龍 静

—本願寺の芸能論考—

檀上寛著『明朝専制支配の史的構造』

鄭 台燮

載録

籠谷眞智子教授 略年譜・著作目録

林田芳雄教授 略年譜・著作目録

杉井六郎教授 略年譜・著作目録

彙報

五五号

(一九九八・三)

論文

地主的土地所有の構造と地主経営

中山 清

—新潟県頸城地方の地主制(五)—

日本人移民と(外国語)教育

チャーティストたちの素顔

—収監された草の根チャーティストの実像—

坂口満宏

古賀秀男

元末浙西の地方官と富民

—江浙行省検校官王良の議案をめぐる—

四衛府日次御贄について

—政治小説『佳人之奇遇』発刊以前—

—琉球所屬問題における「変質」について—

東海散士柴四朗の政治思想

—政治小説『佳人之奇遇』発刊以前—

史料紹介

陸奥宗光の妻亮子宛書簡について

載録

船越昭生教授 略年譜・著作目録

載録

—とくに「集簿」を中心として—

江蘇尹灣漢墓出土簡についての考察

—とくに「集簿」を中心として—

明初の対日外交と林賢事件

米作単作地帯における大地主経営の基

礎構造—貸付地経営を中心に—

京都近郊における延宝検地の一事例

—「田中尹連日記」にみる下鴨村延

宝検地記事を中心に—

『下鴨社家日記』にみる賀茂伝奏と下

鴨社惣代—延宝期を中心に—

近世下鴨社における年中行事

近世都市生活における疱瘡神まつり

—「田中兼頼日記」を素材として—

史料紹介

西園寺公望書簡—鳩居堂 熊谷信吉宛—

竹村房子

植松 正

中野昌代

高井多佳子

岩橋里江

永田英正

檀上 寛

中山 清

岸 妙子

岸本香織

宇佐美尚穂

佐藤文字

—「田中兼頼日記」を素材として—

史料紹介

西園寺公望書簡—鳩居堂 熊谷信吉宛—

竹村房子

—「田中兼頼日記」を素材として—

史料紹介

学園創立九十周年

—「田中兼頼日記」を素材として—

史料紹介

史学科創設五十周年

—「田中兼頼日記」を素材として—

載録

—「田中兼頼日記」を素材として—

史料紹介

—「田中兼頼日記」を素材として—

載録

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—「田中兼頼日記」を素材として—

—イギリス王室と民衆・世論—
アメリカのヴィクトリアニズムと中産階級

階級

常松 洋

五九号

(二〇〇二・二)

研究ノート
アメリカに渡った日本人移民に関する歴史研究の現在
—『日本人アメリカ移民史』補論—

坂口満宏

ロシアの人口移動(十八—二十世紀)とその特色

中村泰三

論文

皇親と賜姓皇親

吉住恭子

「ローマの平和」とキリスト教
—二世紀における帝国と教会—

新田 一郎

書評

唐代の積糞について

中野昌代

キャロライン王妃と貴族院の「裁判」
アメリカ禁酒法の施行状況

古賀秀男

坂口満宏著『日本人アメリカ移民史』
松井嘉徳著『周代国制の研究』

松田京子
吉本道雅

系氏族

菅澤庸子

—ウィカシヤム報告書にみる同時代の評価—

常松 洋

播磨国越部下荘相論に関する一考察

岸本香織

—元亨三年後醍醐天皇安堵について—

載録

天王寺妙嚴院御比丘尼御所

木原弘美

史料紹介

中山清教授 略年譜・著作目録

載録

—中世大坂の寺院史についての試み—

大原眞弓

叡山松禪院文書

稲本紀昭

総目録(五一—六〇号)

菩提山本願信円の夢

大原眞弓

藤縄謙三教授追悼録

彙報

文化・文政期高松藩における砂糖積出

宇佐美尚穂

藤縄謙三教授 略年譜・著作目録

彙報

状況—大内郡引田村を事例として—

上田純子

藤縄謙三教授追悼文集

彙報

幕末期萩藩における給領取立豊兵衛

上田純子

藤縄謙三教授追悼文集

彙報

—寄組浦家を事例として—

松本郁美

載録

彙報

初代上海領事品川忠道に関する一考察

高井多佳子

永田英正教授 略年譜・著作目録

載録

—小説と現実の「時差」—

高井多佳子

彙報

載録

前漢文帝期の政治における一考察

上野有美子

載録

載録

北魏末期の爾朱榮

小島典子

載録

載録

唐玄宗「御製御書」關特勤碑文考

菅沼愛語

六〇号

(二〇〇三・二)

—唐・突厥・吐蕃をめぐる外交関係の推移—

吉野 香

論文

論文

広西省貴州における団練の形成と郷紳

吉野 香

論文

論文

柴四朗の国権論

高井多佳子

論文

論文

史料紹介

後桜町女帝年譜稿

所 京子

—『佳人之奇遇』における「自由」—

論文

尚順書翰—鳩居堂熊谷信吉宛—

竹村房子

北シリアにおけるスンナ派優遇策の開始

谷口淳一

論文

二〇〇二年度 学会行事

新入生歓迎会

本来ならオリエンテーションのあとに、バスツアーを行うべきなのでしょうが、本年度は、日程の都合上、バスツアーを先に行う運びとなりました。

四月六日(土)

新入生歓迎バスツアー 仁和寺

昨年度に引き続いて、当日の昼休み、先生方を交えての昼食会を開きました。お弁当とお茶を配りながら点呼をとったあと、先生に目的地である仁和寺についての解説、及び見所を話して頂きました。

そして予定通り「館前に停車した四台のバスに乗り込み、仁和寺へ。土曜日ということもあり、混雑しないかが心配だったので、それほど渋滞に巻き込まれることもなく、無事仁和寺に到着。また、バスの中では、それぞれに自己紹介で盛り上がり、最初は緊張していたものの、目的地に着く頃には、打解け合うことが出来たようです。

仁和寺は観光客で賑わい、ちょうど御室の桜に つつしも満開で、とても綺麗でした。心配していた天候にもなんとか恵まれ、広い境内の中を思い思いに散策し、美しい景観を満喫しました。その後、皆さんの協力もあって、五時過ぎには学校に戻って来る事が出来ました。新入生の皆さん、先生方、そして平安観光の田村さん、お疲れ様でした。

四月八日(月)

新入生オリエンテーション

新入生とわたしたち史学会委員が、そろっての対面。とはいっても先日バスツアーで大分覚えられていた様子。改めての自己紹介と、学会についての説明を行いました。そのあとの質問会では、新入生

の皆さんから単位や授業の選択に関する様々な質問がござい、わたしたちも拙いながらも返答しました。これからの学生生活には不安もあることでしょうが、是非とも楽しく過ごして頂きたいものです。

春季公開講座

五月三十一日(金)

近世京都醍醐町に生きた人々

本学教授 中山 清氏

ヴェルサイユ宮殿―絶対君主の儀礼空間―

京都橘女子大学教授 服部 春彦氏

卒業論文中間発表会

- 日本史専攻 一〇月一五日(火)～一七日(木)
- 東洋史専攻 一〇月一五日(火)・二六日(水)
- 西洋史専攻 一〇月一六日(水)・二七日(木)

秋季公開講座

十一月一日(金)

可視化された王権―秦始皇帝の「帝国」を読む―

本学教授 松井 嘉徳氏

卑弥呼と神仙思想

京都学園大学教授 岡本 健一氏

一回生専攻分け説明会

二月六日(金)

一回生と先生方の交流をはかりつつ、二回生に向けての専攻分けについての説明会が昼休みに行われました。各専攻の先生方による説明が行われたあと、質問会となりました。

一回生の皆さんは専攻決めに真剣な様子で、思っていたよりも質問の声の掛かり、学会委員にとっても難しい質問が出ることもありましたが、少しでも参考になれば幸いです。

短い時間ではありましたが、充実した説明会になったようです。

予餞会

二月二〇日(金)

四回生の卒業論文提出の切日でもあったこの日、午後六時から祇園「かがり火」にて、毎年恒例の予餞会が行われました。卒業生と先生方が一同に会し、楽しく和やかな雰囲気の中で進行しました。卒業論文を無事に書き上げて提出したあとの、先輩方の晴れやかな表情が印象的でした。卒業生の皆さん、お疲れ様でした。

早春の学会旅行

三月二六日(水)・二七日(木)

松江・出雲大社・皆生温泉への旅を企画しています。(加藤麻百合)

二〇〇二年度 史学科講義題目

史学科共通

講義

- 史学研究入門 A 常松教授
- 史学研究入門 B 谷口助教
- 日本史概論 A 柴田教授・瀧浪教授
- 日本史概論 B 坂口助教
- 東洋史概論 A 植松教授
- 東洋史概論 B 檀上教授
- 西洋史概論 A 新田教授
- 西洋史概論 B 常松教授
- 考古学 梶川講師
- 民俗学 根井講師
- 日本美術史 山本講師
- 東洋美術史 竹浪講師
- 西洋美術史 愛宕助教
- 歴史地理学 中村教授
- 人文地理学 中村教授
- 自然地理学 相馬講師
- 地誌学 中村教授

講読

- 漢文 古松・大野・古勝講師
- ラテン語 竹中講師

演習

史学基礎演習 A
松井・瀧浪・常松・檀上・中山教授・谷口助教
史学基礎演習 B
新田・植松・柴田・古賀・中村教授・坂口助教

日本史専攻

特講

古代宮廷社会の諸問題(女帝論)
古代宮廷社会の諸問題(古代都市論)
『平家物語』の実像Ⅰ(内乱の背景)
『平家物語』の実像Ⅱ(内乱の展開)
大地主制の成立と展開
巨大地主経営の構造分析
移民のアイデンティティと二つの国家

中国の日本人社会
近世のパスポート体制
日本文化論

講読

日本史講読Ⅰ
日本史講読Ⅱ
日本古文書

演習

日本史演習Ⅰ
瀧浪・中山・柴田教授・坂口助教
日本史演習Ⅱ
瀧浪・中山・柴田教授・坂口助教

東洋史専攻

特講

元代沿海地域社会の諸問題
明代沿海地域社会の諸問題
朝鮮古代史を考える
古代東北アジア史を考える
イスラーム時代西アジア史総論
イスラーム時代西アジア史各論

中国史史料学(史部目録学)
出土文字史料による中国古代史の再構築
木田講師

中国古代の王権
シルクロード史研究
松井教授
富谷講師

講読

東洋史講読Ⅰ
東洋史講読Ⅱ
東洋史講読Ⅲ

演習

東洋史演習Ⅰ
松井・植松・檀上教授・谷口助教
東洋史演習Ⅱ
松井・植松・檀上教授・谷口助教

西洋史専攻

特講

イギリス近代社会の展開Ⅰ―産業革命と工業化
イギリス近代社会の展開Ⅱ―政治・社会変動と民衆の世界
ローマ皇帝崇拜の性格と意義
「皇帝崇拜とキリスト教迫害」―帝国と教会との関わりについて―
ヨーロッパ中世における紛争・紛争解決と秩序
中世中期イタリアにおける「人の移動」

近世ポーランド史探訪(1)―ポーランド・ルネサンスの諸問題
近世ポーランド史探訪(2)―バロック期からポーランド分割まで
バルカン地域の東西文化交流
中央アジア、ユーラシア東北部の東西文化交流

講読

西洋史講読Ⅰ
常松教授

西洋史講読Ⅱ
西洋史講読Ⅲ
青木講師
中村講師

演習

西洋史演習Ⅰ
西洋史演習Ⅱ
新田・古賀・常松教授
新田・古賀・常松教授

〔注〕 Aは前期、Bは後期、特記していないものは通年。ただし特講については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、A・Bの記号は省略した。

二〇〇二年度 卒業論文題目

日本史専攻

秋田谷麻利江 「統治術」としての桜植栽について―武州多摩郡蓮光寺村を事例として―

安達 明子 一〇・一一世紀における清和源氏の実状

伊々田蘭子 御霊会と牛頭天王―祇園御霊会の始まり―

井手由希子 古代の藤原氏―光仁・桓武朝を中心として―

伊藤 朋子 近世秋田藩の上方廻米

井上貴美子 明暦大火の実態―様々な記録をもとに―

内山 庸子 北条政子の目指したもの

大重 郁恵 近世の奄美―喜界島の歴史と糖業をみる―

岡田 志織 明治期の博物館事業を追って―『眼目ノ教』の導入から伝統の創出まで―

岡田 智美 江戸幕府と朱印船

岡本あゆみ 鷗野皇后と皇后権

小田 寧子 鳥取土族の福島県安積開拓移住

小田 早苗 正妻と次妻―源倫子と源明子―

笠 露子 古代の医療
久留米における高等女学校

河村 綾
北澤 祥子

初期友禪染の四つの流行要因
宇多天皇期の藏人所改革―菅原道真
の藏人頭就任と藤原時平の藏人所
別当就任―

木津 郁子
久次米真弓
岸野 真沙

近世越前奉書と五箇地方
江戸期の本屋と出版統制
田沼期における新貨御吹出について
―南鐔二朱判を中心に―
江戸中期における歌舞伎とその影響
橋にみる近世大坂
采女についての一考察
近世化粧史―江戸時代の女性の化
粧―

工藤あず美
工藤美希子
櫻田 志穂
久堀 愛

大友皇子の天皇即位について
信長の描いた政権像とは
越前・河野浦右近権左衛門家の北前
船経営
室町庶民女性の社会的地位
源義経―人物像の移り変わり―
吉田松陰―松陰の処刑と「留魂録」―
博多復興―その過程と意義につい
て―

黒田 志乃
小西 愛恵
小林 未来

朝鮮通信使と雨森芳州について
小金井の花見について―他の桜の名
所との比較から―
アイヌ民族の入れ墨の目的―周辺諸
民族との比較から―
挿絵からみた『都名所図会』
下総国小金牧―享保期を中心に―
「大君の都」再考―オールドコックの
日本観と文明論を中心に―
イェズ会の日本布教期における日
本人の宗教意識―日本人のキリス
ト教受容について―
飛鳥―古代の空間―
戦時下の台湾・満州における武道組

齋藤 陽子
佐藤 弥希
篠田 雅美
鳥添 美和

富士鷹重沙子
福家 裕乃
福光 直子
福田 純

織―大日本武徳会の活動を中心
に―
龍野五寸釘事件―女達の主張―
近世日本における百科事典の編纂
―貝原益軒『大和本草』を中心
に―
少女が少女マンガに求めたもの―
九七〇年代「乙女ちっく」現象を
追って―
視覚障害者の音楽活動―当道座の発
展と解体、そしてその後―
近世を中心とした丹波材流通と大堰
川筏

鈴木千香子
鈴木 啓子
高島あずさ
高田亜希子

水野 菜都
森 仁子
森 麻衣子
安田 典世
山本 彩
吉川 芙佐

天保山と大坂町人
行基
明治期を中心とした公衆衛生システ
ム―神戸コレラ・ベスト大流行を
通じて―
京都祇園―太平洋戦争時を中心に―
「死」の国家管理―明治政府の葬送
墓制―
壬申の乱における大海人皇子の勢力
背景―湯沐邑と舍人―
日本古代におけるヒスイ製玉類の盛

鈴木 啓子
高島あずさ
高田亜希子

歌舞伎からみる占領期の演劇検閲
明治期新聞にみる土族の描かれ方
―庶民から見た土族―
中臣清麻呂と藤原仲麻呂―神祇政策
をめぐる―
庶民における本草学
名築城家藤堂高虎―そのルーツを求
めて―

竹越 望
竹下よしみ
田阪 典子
田淵 聡子

堀野端広美
竹内詩央里
田畑 雅美
田淵 友美
友田 英子
中川 瞳

堀野端広美
竹内詩央里
田畑 雅美
田淵 友美
友田 英子
中川 瞳

辻本有里佳
戸張末利華

阿部 洋子
渡邊 恵
吉田 雅子
吉弘 智美

阿部 洋子
渡邊 恵
吉田 雅子
吉弘 智美

磯部浅一と二・二六事件
維新期における遷都問題
藤原不比等の財産と遺産相続につい
て

東洋史専攻
荒木はるか
伊東生美子

岡野 美里
新谷真由美
森 優子

明代の郷村社会と老人制
新疆ウイグル人のマザール崇拜―イ
スラーム隆盛の歴史と創出される
民族意識―
清末の女性解放運動と不纏足会
清朝初期の皇帝権について
漢代の皇太后―皇帝の母たるもの―
一九世紀の渡米中国人―「賒単工」
の位置付け―
天妃―その生成と伝播についての一
考察―
イギリスのインド支配とサテュー
清末における近代教育の導入―その
導入方策と問題点について―
宋代華南少数民族の漢化過程―儂智
高の反乱を例として―
明末清初における胥吏と幕友―紹興
の歴史的特質から見て―
雍正時代の文字の獄と朋党弾圧の関
連について
ラーマ四世と近代化―シャムの開国
についての一考察―
匈漢交渉考
蜀漢政権における人的ネットワーク
―特に諸葛氏において―
中国の女性観―女訓書の分析を通し
て―
劉向「列女伝」から見る漢代の女性
―魯秋潔婦と魯莊哀姜を通じて―
唐代女性の服飾変化
北宋時代の士大夫と地域社会との関

井上 麻美
岡田 亜紀
小川 絢
長田香菜子
梯 貴子
梶 裕子
国友 静香
佐伯久美子
堰野端広美
竹内詩央里
田畑 雅美
田淵 友美
友田 英子
中川 瞳

井上 麻美
岡田 亜紀
小川 絢
長田香菜子
梯 貴子
梶 裕子
国友 静香
佐伯久美子
堰野端広美
竹内詩央里
田畑 雅美
田淵 友美
友田 英子
中川 瞳

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

鍋島多映子
西川 利華
橋本 理恵

早坂 乃葉
別宗 智美
朴井 夏子

前澤さとみ

前田 尚美

松岡里絵子

松本紗奈美

水田祐美子

森田智恵子

森本 恵子

山賀 聖子

山田沙矢香

係―義荘からの分析―
古代インドにおける自由思想の伝播
林爽文の乱と台湾移住民社会
戦後台湾における言語転換問題と
「二・二八事件」
唐代(伝奇「周秦行紀」)の創作目的に
関する一考察
徐皇后『内訓』と永楽帝―その刊刻
の意義と女性像―
漢魏交替期における肉刑復活論争
唐代の化粧
三元里事件と社学の役割―広東地域
社会からの視点―
郎世寧の請願行為の評価について―
乾隆期の禁令緩和の請願を中心
に―

満洲映画協会の役割と影響
清末北洋海軍の成立と李鴻章―満州
貴族と李鴻章との関係から見て―
西夏王国にみる国料と土着信仰

17・18世紀のバリのカフェ
属州ブリタニアの都市
フランス植民地主義―文明化の使命
について―
中世ヨーロッパにおけるアウトサイ
ダー
ジャンヌ・ダルクとオルレアン
の解放

ギリシア悲劇の民主像と民主政治と
の関連性―エウリピデス劇から考
える―
イギリス議会の起源―国王巡回裁判
と騎士―
自由青年運動の歴史とその背景
大黒屋光太夫が見たロシア
神聖ローマ皇帝カール5世―最高権

力者の敗北―
ウエスパシアヌスの治世
古代の医学
ローマ建築
クレオパトラ七世の研究―ローマ国
との関わりにおいて―
アクエンアテン王とアテン神
中世シチリア王国におけるイスラム
中世スコットランドの王位継承慣行
とマクベス
近世ドイツの魔女狩り
聖フランシスコ・ザビエルとその肖
像画
英仏関係の変動とエレアノール王妃
中世期のハプスブルク帝国
ユダヤ王ヘロデ
イスラーム・スペイン 寛容の実態
―コルドバ・ウマイヤ朝時代―
1945年 フランス国民の帝国意
識

第三帝国下の民衆生活
古代ローマの道と水道―アッピア街
道を中心に―
王墓からみる古王国エジプト
イギリス帝国における北米とインド
―世界システム論をふまえて―
古代ローマとインドの南海貿易
ポンペイの都市形成―灰の下に眠る
もの―
アメリカにおける排日運動と日系人
の強制収容
ポンペイ・都市形成の歴史
実践者マキアヴェッリと『君主論』
三月前期におけるドイツ国民意識の
形成

紙子沙弥香
河原田撰子
神崎 陽子
菊池 綾乃
北野たみ代
黒川 真衣
小谷美記子
白澤智恵美
杉原 慶子
高橋美すづ
高山 乃美
武内 香絵
辻 奈都美
徳原 真穂
中村久美子
中村 祐子
西尾実抄子
前田 貴子
水野有希子
宮慶 倫子
安田 佳代
山口 陽子
山下真智子
吉林 紀世

古代都市論
中世の地方社会
地主的土地所有をめぐる諸問題
※比較移民史
宮崎滔天著「三十三年の夢」
※近世のパスポート体制
※京都の文化を中心に考える
日本古文書学特論
出土文字史料による中国古代・中世史
の再構築
中国社会と「士」階層
中国社会史特論
※シルクロードの歴史
※中国史料学(史部目錄学)
※イスラーム時代の西アジア
※バルカン・中央アジア・東北アジアの
東西文化交流
西洋古代世界の理想国家像とローマ帝
国
※西洋中世における紛争・紛争解決と社
会
イギリス近代における政治・民衆・女
性
アメリカ大衆社会論
※中世中期イタリアにおける人の移動
※東欧史特論

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

力者の敗北―
ウエスパシアヌスの治世
古代の医学
ローマ建築
クレオパトラ七世の研究―ローマ国
との関わりにおいて―
アクエンアテン王とアテン神
中世シチリア王国におけるイスラム
中世スコットランドの王位継承慣行
とマクベス
近世ドイツの魔女狩り
聖フランシスコ・ザビエルとその肖
像画
英仏関係の変動とエレアノール王妃
中世期のハプスブルク帝国
ユダヤ王ヘロデ
イスラーム・スペイン 寛容の実態
―コルドバ・ウマイヤ朝時代―
1945年 フランス国民の帝国意
識

第三帝国下の民衆生活
古代ローマの道と水道―アッピア街
道を中心に―
王墓からみる古王国エジプト
イギリス帝国における北米とインド
―世界システム論をふまえて―
古代ローマとインドの南海貿易
ポンペイの都市形成―灰の下に眠る
もの―
アメリカにおける排日運動と日系人
の強制収容
ポンペイ・都市形成の歴史
実践者マキアヴェッリと『君主論』
三月前期におけるドイツ国民意識の
形成

紙子沙弥香
河原田撰子
神崎 陽子
菊池 綾乃
北野たみ代
黒川 真衣
小谷美記子
白澤智恵美
杉原 慶子
高橋美すづ
高山 乃美
武内 香絵
辻 奈都美
徳原 真穂
中村久美子
中村 祐子
西尾実抄子
前田 貴子
水野有希子
宮慶 倫子
安田 佳代
山口 陽子
山下真智子
吉林 紀世

古代都市論
中世の地方社会
地主的土地所有をめぐる諸問題
※比較移民史
宮崎滔天著「三十三年の夢」
※近世のパスポート体制
※京都の文化を中心に考える
日本古文書学特論
出土文字史料による中国古代・中世史
の再構築
中国社会と「士」階層
中国社会史特論
※シルクロードの歴史
※中国史料学(史部目錄学)
※イスラーム時代の西アジア
※バルカン・中央アジア・東北アジアの
東西文化交流
西洋古代世界の理想国家像とローマ帝
国
※西洋中世における紛争・紛争解決と社
会
イギリス近代における政治・民衆・女
性
アメリカ大衆社会論
※中世中期イタリアにおける人の移動
※東欧史特論

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

二〇〇二年度 大学院文学研究科
史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目
特論
古代都市論
中世の地方社会
地主的土地所有をめぐる諸問題
※比較移民史
宮崎滔天著「三十三年の夢」
※近世のパスポート体制
※京都の文化を中心に考える
日本古文書学特論
出土文字史料による中国古代・中世史
の再構築
中国社会と「士」階層
中国社会史特論
※シルクロードの歴史
※中国史料学(史部目錄学)
※イスラーム時代の西アジア
※バルカン・中央アジア・東北アジアの
東西文化交流
西洋古代世界の理想国家像とローマ帝
国
※西洋中世における紛争・紛争解決と社
会
イギリス近代における政治・民衆・女
性
アメリカ大衆社会論
※中世中期イタリアにおける人の移動
※東欧史特論

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

古賀教授
常松教授
山辺講師
小山講師
服部講師
新田教授
中村教授
谷口助教授
木田講師
富谷講師
植松教授
松井教授
榎上教授
松井教授
山路講師
下坂講師
柴田教授
柴田教授
坂口助教授
松井教授

東洋史演習Ⅱ 植松教授
 東洋史演習Ⅲ 檀上教授
 東洋史演習Ⅳ 谷口助教
 西洋史演習Ⅰ 新田教授
 西洋史演習Ⅱ 古賀教授
 西洋史演習Ⅲ 常松教授

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

女帝論 瀧浪教授
 大地主地域論 中山教授
 一九世紀以降の日本の東アジアにおける文化の交流と摩擦 坂口助教
 近世の社会と思想 柴田教授
 東洋史特殊研究Ⅰ 松井教授
 元代史の研究 植松教授
 明清時代の国家と社会 植松教授
 イスラーム時代の西アジア史料 谷口助教
 ローマの州分寺—日本の国分寺との比較において 新田教授
 ヨーロッパ一八四八年研究 古賀教授
 革新主義とアメリカ社会 常松教授

その評価の変遷と清朝正統性の確立—
 (以上東洋史)
 貴傳名暁子 フランス革命期における政治と美術
 松木 志保 ロバート・ピールとイギリス保守党の編成
 (以上西洋史)

二〇〇二年度 大学院行事

研究発表会・その他
 四月二十六日 大学院歓迎送迎会(「萬三」にて)
 六月 七日 第一回定例研究会
 清代後期長江における李本忠の航海整備事業 研修者 森永 恭代
 幕末公家社会における政治意識の形成—修陵事業を通じて—
 D1 佐竹 朋子
 劉歆の思想とその展開—讖緯の形成と経学— 研修者 馬場理恵子
 ルイ十六世の裁判と処刑の意味
 M1 刀谷 文子
 平安時代初期の親王について
 M1 永盛 恵
 地域社会における領曆の意義—山口 泉豊浦町の場合—
 M1 川崎 理恵
 平安京における陵墓地の選定について
 M1 木本 久子
 フランス革命におけるヴァンデの位置付け—ヴァンデを通して見る革命独裁の論理—
 M1 田中久美子
 エトルリア研究序説—国家の特徴と限界—
 M1 宮本 雪絵
 フランス革命における美術政策の展開
 M3 貴傳名暁子
 フランス革命初期における新聞と政治

治について M2 長谷川真希
 ロバート・ピールとイギリス保守党の展開 M2 松木 志保
 「士族」意識の展開—稲田騒動後の「駆出奉公人」の意識と行動—
 M3 加藤 悦子
 明末福建月港開港と日本—海洋論と海禁論をめぐって—
 M2 木岡さやか
 『大義覚迷録』をめぐる政治意識の変化—雍正・乾隆時代の禁書問題を中心として—
 M2 田中 絢子
 『輔弼体制』再考—「後継内閣首班奏請権」の変遷と「宮中勢力」の動向から— M2 西岡山奈仁子
 原爆裁判を通して考える戦後処理—東京原爆裁判を中心に—
 M2 辻川野乃子
 戦国時代初期の京極氏について
 M2 野本 景子
 近世後期における世襲官家の家政運営について—桂宮家を中心に—
 M2 宮内 陸美

二〇〇二年度 大学院修士論文題目

加藤 悦子 「士族」意識の展開—稲田騒動後の「駆出奉公人」の意識と行動—
 西岡山奈仁子 昭和初期における「輔弼」機関の役割について—天皇・「宮中勢力」と内閣の関係から—
 野本 景子 戦国初期における近江北部の地域社会について—京極氏の支配体制を中心に—
 南 晃子 阿蘭陀通詞の基礎的研究
 (以上日本史)
 木岡さやか 明末における漳州月港開港に関する一考察—開洋論と海禁論の分析を通して—
 田中 絢子 清朝の中国支配と『大義覚迷録』—

一二月三十一日

第三回定例研究会
 幕末期高松藩砂糖生産の動向—『砂糖方一件日記』から見た—
 D3 宇佐美尚穂
 学習院学問所の意義
 D1 佐竹 朋子
 『東京電報』における柴四朗—「高島炭坑視察実記」—
 特別研修者 高井多佳子

報 木岡さやか 明末における漳州月港開港に関する一考察—開洋論と海禁論の分析を通して—
 田中 絢子 清朝の中国支配と『大義覚迷録』—

修士論文中間発表会

十一月二・三・四日

フランス革命期における政治と美術

M3 貴傳名曉子

フランス革命初期における新聞と政治

M2 長谷川真希

ロバート・ピールとイギリス保守政治の展開

M2 松本 志保

明末における福建省月港開港の意義

M2 木岡さやか

『大義寛迷録』をめぐる政治意識の変化―雍正・乾隆時代の禁書問題を中心として―

M2 田中 絢子

『輔弼体制』再考―『後継内閣首班奏請』方式の変遷と『宮中勢力』の動向から―

M2 西岡山奈仁子

『士族』意識の展開―稲田騒動後の「駆出奉公人」の意識と行動―

M3 加藤 悦子

近世中期における親王家の相統について―『桂宮日記』から読み解く―

M2 宮内 睦美

戦国時代初期における近江北部地域の支配構造―京極氏を中心に―

M2 野本 景子

〔お詫びと訂正〕

『史窓』第五九号所載「二〇〇一年度大学院行事研究発表会・その他」の第二回研究発表会（六月一日）の記事におきまして、水谷友紀氏の発表題目に誤植がありました。お詫びして、ここに訂正いたします。

（誤） 近代奈良町の存在形態

（正） 近世奈良町の存在形態

研究室だより

京都女子大学史学科は、本年度四月、松井嘉徳教授を新しくお迎えしました。松井教授のご専門は中国古代史で、甲骨文と金石文を縦横に駆使し、周代史の全面的見直しをめざされており、東洋史特殊や演習Ⅰ・Ⅱをご担当されています。ただ本年度は、日本史の稲本紀昭教授が、国内研究者として皇學館大学で研究調査に専念されているため、史学科のスタッフは総勢一三人となっています。また、本年度末には、今日まで一九年間の長きにわたって、日本史をご担当してこられた中山清教授が、定年でご退職されることになりました。先生がご退職されるにあたり、長年のご苦勞に報い、また新たな門出をお祝いするために、平成一五年三月八日に、史学科の教員と、大学院で先生のご指導を受けた大学院修士および大学院在学生在が集まり、ささやかなパーティを予定しています。ご健康に留意され、今後のご活躍を心からお祈りいたします。

今年度も多くの先生方に非常勤講師として授業をご担当していただいています。例年通り非常勤の先生方との懇親会を、五月一〇日に「洛匠」にておこないました。

今年度の新入生は一六一名で、卒業予定者は一三〇名です。年度始めの段階で、学部在籍者数は、休学者を含め五六四名になっています。

大学院は、前期課程が六名の新入生を迎えて計一八名に、後期課程は一名が進学して計二名に、後期課程の二名が後期課程をおえ、特別研修者になっています。前後期の院生と特別研修者をあわせ二二名が、それぞれの研究テーマに意欲的に取り組んでいます。

東洋史コースでは、今年度から中国研修旅行を始めました。平成一五年一月六日から同一〇日にかけて、東洋史の教員四名と二回生以上の東洋史コースの学生三一名、総勢三五名が北京に向けて出発しました。有意義な研修旅行だったとのこと、参加者全員が満足し、無事に帰国しました。

今年度の学会旅行は、三月二七・二八日の両日、

出雲・鳥取方面に出かけることになっています。（史学科主任・柴田 純）

学会委員

二〇〇二年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

- 委員長 日本史三回生 田中 祐子
- 副委員長 東洋史二回生 今井 深希
- 計 日本史三回生 加藤藤百合
- 記 日本史二回生 高木 泉
- 日本史二回生 飯村 恵美
- 東洋史二回生 井田 美幸
- 一回生 浦田 真美
- 一回生 高野 千佳
- 一回生 田中麻理衣
- 一回生 田原 靖子
- 一回生 松原 奈美

お知らせ

本誌では、国立情報学研究所が進めている大学紀要類の電子化による公開事業への参加を予定しております。予定通り進みますと、次号（六一号）から順次電子化による公開を進めることとなります。具体的には、著作権上問題のある図像を除き、表紙を含む本誌全体を、誌面の体裁のままPDF書類化し、インターネット上で無料公開することになります。

電子化による公開の前提条件として、掲載内容の著作権が著者個人ではなく、発行者（本会）に帰属していることが必要となります。そのため、次号より著作権帰属先の明確化を図ることになり、それに伴う本会規約の見直し作業を進めています。新規約は、次号誌上に掲載する予定です。

皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

編集後記

本号をもって『史窓』は第六〇号という節目を迎えました。第五〇号に倣って、第五一号から本号までの総目録を収録し、この十年間の歩みを振り返るよすがといたしました。なお、総目録の作成に際しては、学会委員の加藤麻百合さんに御協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。論文は二本と少な目になりましたが、研究ノート一本と書評二本を掲載することができました。また、本年度末で定年退職される中山教授の略年譜・著作目録を収めました。

二〇〇〇年度から始まった新カリキュラムの施行も三年目に入り、四回生配当の「演習Ⅱ」以外の科目はほとんどセメスター制に切り替わりました。昨年度は新旧カリキュラムの重複が最も目立つ年に当たったため、前号彙報欄の特講の題目一覧には新旧双方の題目が掲載されておりましたが、本号からは新カリキュラムの題目だけを採録することとしました。また、これまで本学他学科所属の授業担当者の肩書きがすべて「講師」となっておりましたが、本号より史学科所属教員と同じ扱いといたします。兼任講師の方々につきましては、従来どおり「講師」と記載します。

先の「お知らせ」にも記しましたとおり、次号から電子化による公開を計画しております。この計画が実現しますと、インターネットを介して自由に本誌が閲覧できるようになり、今まで以上に多くの読者の目に触れることとなります。奇しくも「還暦」の節目に重なった電子公開が、本誌の一層の発展につながることを期待しております。

(谷口)

執筆者紹介

高井多佳子 本学大学院特別研修者

谷口 淳一 本学助教

坂口 満宏 本学助教

松田 京子 愛知教育大学助教

吉本 道雅 立命館大学教授

史窓 第60号

二〇〇三年二月五日 印刷

二〇〇三年二月十日 発行

編集 京都女子大学史学会

印刷所 株式会社印刷同朋舎

発行所 京都女子大学史学研究室

京都市東山区今熊野

北日吉町三五

電話(075) 531-1911

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 60

February 2003

Contents

Articles

- TAKAI Takako, Shiro Shiba and His Idea of Sovereignty:
An Interpretation of Liberty in *Kajin no Kigu* 佳人之奇遇 (1)
- TANIGUCHI Junichi, Beginning of the Pro-Sunnite Policy in Northern
Syria: Ḥalab in the First Half of the Twelfth Century (25)

Note

- SAKAGUCHI Mitsuhiro, Historical Studies on the Japanese
Immigrants in the United States: A Review (43)

Book Reviews

- SAKAGUCHI Mitsuhiro, *Nihonjin Amerika Iminshi* (A History of
Japanese Immigrants in the United States) (MATSUDA Kyoko) (63)
- MATSUI Yoshinori, *Shudai Kokusei no Kenkyu* (A Study on the Regime
of the Zhou Dynasty) (YOSHIMOTO Michimasa) (69)

Biographical Note and List of Works

- NAKAYAMA Kiyoshi (77)

General Index (Vols. 51-60) (81)

Miscellanea (87)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931